

令和8年度第1回北九州市子ども読書活動推進会議 会議録(要旨)

1 日時 令和8年8月18日(火)14:00～15:30

2 場所 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

3 出席者

[委員](敬称略)

山元 悦子、上満 佳子、藏内 保明、神村 恭子、
重國 香、宗森 祐哉、川嶋 洋子、二田水 ゆかり、吉村 敦子、
鶴田 弥生、前田 彩乃

計11名

[事務局]

中央図書館 館長 他 12名

4 議事

- ・「北九州市子ども読書プラン(第5次北九州市子ども読書活動推進計画)」
について
- ・「北九州市子ども読書プラン(第5次北九州市子ども読書活動推進計画)」
本年度の重点取組について

【議事1】「北九州市子ども読書プラン(第5次北九州市子ども読書活動推進計画)」
について

事務局より資料を基に説明

(委員)学校、地域等と連携した読書活動の推進について、学校、地域との連携が見えにくいところがある。具体的にはどのようなことをするのか。

(事務局)学校、地域と家庭との連携については、本市の子どもの読書活動推進の中核となるのが子ども図書館なので、情報の集約や、関連性のある取り組みの紹介などを行っていきたい。子ども図書館は学校図書館の支援センターという役割もあるので、学校の読書活動を推進するための支援を行う。例えば団体貸出しや、司書の派遣などに力を入れていく。

(委員)今年度、新規に「学校丸ごと図書館」という施策を打ち出している。学校が個別に様々なことをしていると思うが、子ども図書館が推進の軸になって、

交流や、情報交換するような企画もあるのか。

(事務局)「学校まると図書館」の取り組みについては、学校教育課と連携し、その様子を市立図書館で展示し、市民の方に知っていただけるような取り組みを進めていきたいと考えている。

(事務局)生徒児童が通る動線上にブックコーナーを置き、休み時間に手に取れるような環境を学校全体で作っている。それに伴い、「魅力向上プロジェクト」を立ち上げ、「学校まると図書館」の中でも、特に小中特別支援学校の5校については、もっと魅力のある図書館づくりをしようというプロジェクトを進めている。

(委員)「学校まると図書館」について、子どもたちが、この学年の廊下にはこの本を置いた方がよいのではないか、などの子どものたちの声が反映されると良いと思った。市立図書館の取り組みの中では、子ども司書養成講座やジュニアサポーターの活動など、子どものたちの教育にも力を入れていると思うので、「学校まると図書館」の取り組みの中で活躍できればいいと思った。

(委員)学校地域等と連携した読書活動の推進について、新規既存事業の一覧を見ると、たくさんの事業が施策として打たれていることがわかる。しかし、学校現場に携わる中で、一つ一つの事業が見えにくい。一斉に取り組んでいると感じにくい。教育委員会も学校教育の1つの柱として「読書」を挙げているということで、例えば、この様々な施策を、秋の子ども読書の日などで様々な部局が合同で、フェスティバルのようなキャンペーンを打ち、PRすることは難しいのか。

(事務局)とても大事なことだと考えている。読書プランに基づき、各課が連携して取り組みを行っているという意識ではあるが、提供を受ける側の感じ方として、各課がバラバラな取り組みを行っている印象を受けているという状況であることを改めて認識した。

ご指摘、ご意見をいただいたように、市全体で読書を推進していく取り組みをしているが、まだまだ周知されていないという課題がある。市民にわかりやすく、子どもたちにも伝わりやすいような方法や時期を考え、関連マップのような形の行事のお知らせをするなど、いただいたご意見をもとに検討する。

(委員)北九州市子ども読書の日について、先ほど「フェスティバル」というお話があったが、子ども読書の日が、全市を挙げてのイベントになればいいと思った。

(事務局)子ども読書の日は、北九州市ならではの独自の取り組みで、10月の第4日曜日と設定している。今年は10月25日。この日は子ども図書館だけではなく、各地区館、分館すべてが、特別なイベントや、読書を推進するようなしおりやポップなどを作っている。学校でも、子ども読書の日を中心とした秋の読書週間の取り組みを行っている。より一層の周知の工夫が必要だと認識している。

【議事2】「北九州市子ども読書プラン(第5次北九州市子ども読書活動推進計画)」
本年度の重点取組について

事務局より資料を基に説明

(委員)今後実施されるイベントは、アンケート等をとったりされるのか。

(事務局)実施ごとにアンケートをとり、成果と課題を来年度つなげていきたいと考えている。

(委員)私はビブリオバトルが非常に好きで、A 中学校では、全クラスの全生徒でビブリオバトルの予選会をしている。最終的に学校全体チャンプ本を決めた。昨年私はPTA会長として、審査員として参加した。本を読むということをアウトプットするのが重要だということに気づかされた。ビブリオバトルの参加者は、必ずしも演説が上手な人だけではないが、クラスの代表として推薦されている。その子の内面が見え、なんて素敵なイベントなんだろうと感動した。

読書は、(本の内容を)取り入れるだけではなく外に出すとか、自分を知ってもらうきっかけになる企画だと思っている。ぜひ色々な中学校で広まればいいと思った。

バトルが苦手な子どももいると思う。私の前任の委員は「読書会」を開いていて、私も参加した。それは単純にみんなで本を持ち寄って読んで、感想をシェアするという会だが、それだけでも、その人の個性やその人の歴史がわかったりする。このような企画は中学生にたくさん取り組んで欲しい。その中学生を小学生が見て、憧れになっていただけたら嬉しい。

(事務局)なぜその本が好きなのかを、5分間で本当に自己表現できる、また、みんなが聞いて、バックアップしていくコミュニケーションが生まれるという読書コミュニティを育む1つの方策だなと感じたところだ。

子ども図書館では、「ジュニアサポーター」という図書館に関わりたと思っている子たちが活躍してくれている。書架の整理だけではなく、自分の好きなものを書いたり、お互いにどんな本が好きなのかを話したりなど、コミュニティの活性化を図っていきたいと考えている。ジュニアサポーターは、図書館事業のサポーターもしてくれている。これは続けていきたい活動であり、その活動の内容については、工夫していきたいと思っている。

(委員)この会議の中でもジュニアサポーターを経験された方が公募委員として参加してくださっている。何かアイデアや、改善、新しい企画など、一言いただきたい。

(委員)ジュニアサポーター的な活動を学校全体で行うことがよいのではないかな。例えば、読書感想文の課題としてポップづくりをするなど。学校全体で取り組んでいけたら読書活動の推進につながると思う。

(委員)学校図書館職員を中学校区に1名配置している。やはりこの方たちの力が大きい。

(事務局)読書活動にとっても力を入れている学校で、6年生が1年生に読み聞かせをしている学校がある。例えば環境をテーマに1つの部屋を、水環境館に見立て、それに関連する図書を置いたりして読書活動の推進を進めている。

(委員)過去に、司書や学校図書館職員を集めての研修会を夏休み期間に行っていたが、そのような進んだ学校の取り組みを実際に見ていただき、それぞれの学校区の図書館の環境整備に当たっていただきたいと思う。

(事務局)年に3回研修会を行っている。取り組みを充実してやられた所の実践発表を、管理職と学校司書と司書教諭、学校図書館職員で共有する場を作っている。学校図書館職員に対しては、年3回グループ会議を行い、情報交換を行っている。次のグループ会議は学校見学にしようという声も上がっている。それぞれの学校の図書館を見学し、情報交換をしようと検討している。

(委員) 去年、築上町に開館した新しい図書館が全国的にも注目されている。遊具がフロアの中にあり、そこを取り巻くように本が並んでいるというのは、子どもたちが喜んで接するだろうと思う。このような施設を、ユースリーダーズラボのアイデアを広げるためにも、中高生が見学することがよいのではないか。

世界的な建築家、安藤忠雄さんが設計した「こども本の森」という施設が日本全国に6か所ある。そのようなところから発想して、北九州市の子ども図書館でも、アイデアを広げていただきたい。

(委員) 中学生になると、小学生に比べて地域のイベントに集まりにくい。そこで、中学校の図書館に、地域からイベントをもっていけたら良いのではないかという話が出ている。しかし、本に偏りすぎると、興味のない子どもは図書館にすら来てくれない。中学校の図書館で怪談話ができたらいいなと思うのだが、シビアな部分もある。

英語教育に熱心な保護者の方が多い。英語に関する絵本を用いての読み聞かせが図書室でできたらいいと思う。皆様の意見をお伺いしたい。

(委員) 中学生で読み聞かせが大好きな子どもは多い。地域の方で読み聞かせをしてくださる方を探していた時、門司図書館につないでいただき、9月から来ていただけることになった。子ども読書の日に、読書集会をさせていただこうと考えている。地元の図書館とつながり、いろんなアドバイスをいただこうと思っている。中学生相手に怪談話をするのはハイレベルだと思う。

(事務局) 地域の図書館につなげるというお話から、子ども図書館、地区図書館は各学校から要請があれば読み聞かせボランティアの派遣をしている。ただ、「怪談」というジャンルに狭めてしまうと、それにお答えいただける団体は減ってしまうと思う。読み聞かせをしてくださる団体で、例えば季節に応じて怪談絵本を選んでくださる団体はあるだろう。

(委員) 学校の立場から、先ほど言われたように子どもたちは読み聞かせが大好きである。ある学校は、まちづくり協議会のボランティアの方々が週に1回学校で読み聞かせをしてくださっている。定着している学校は既にやっているが、新規で始めようと思えば、校長先生と相談し、地域ボランティアの方々と協力しながら、地域全体で子どもたちを育てていく必要がある。

(委員) 学校からご依頼をいただいて、メンバーと一緒に読み聞かせを行ってい

るが、人数的に難しいところがある。一生懸命ブックトークに力を入れているが、活動するなかで子どもたちが少しでも本に興味を持ってもらう機会を提供できることは、とてもありがたいなと思っている。

図書館や児童館で読み聞かせをしているが、現在大人を対象に朗読などもしている。様々な分野で多くの方に本に親しんでいただくために、何か力になれたらと思っている。

(委員)子どもに読み聞かせをしてあげると非常に達成感がある。小中学生が子どもたちに向けて読み聞かせをする機会や、講座はあるのか。

(事務局)子ども司書養成講座の中で、読み聞かせの練習をして、実際に学校で実践するという内容の講座を行っている。また、ジュニアサポーターの活動の1つとして、読み聞かせ会を開いている。

今後、大人だけではなく、図書館にもともと関わっている、また、関わりたいと思っている子どもたちの力を生かした事業もしていきたい。

(委員)乳幼児期のベビーリーディングについて、チラシを拝見すると、親子の絵本を介した触れ合いや繋がりに重点が置かれていると思う。

プランの「はじめての本事業」では、保護者の方や赤ちゃんに読んでほしい本を紹介していると思うが、今回のベビーリーディングの取り組みとの間に、何かつながりや連携はあるのか。

(事務局)「はじめての絵本事業」の活用・連携について、ベビーリビングの中で、はじめての本事業で配布している本を活用した読み聞かせも取り入れていただいている。毎回3、4冊の読み聞かせと、赤ちゃんとのマッサージの交流、子育て講座などを行っている。読み聞かせの方法についてのお話も取り入れていただいている。

(委員)昨年、福岡市でヨシタケシンスケさんの企画展があった。やはり人気のある絵本作家の方を読んで、実際に朗読を子どもたちに聞かせるという企画をすれば非常に盛り上がるのではないかと思う。

そのようなプロジェクトを立ち上げていただき、インパクトのあるものを実施することが大事だと考える。

(委員)学校まると図書館の推進ということで、多くの校長先生が話題にしていた。自分たちの学校はこんなことしてるという話をしている。これは今がチャ

ンスだなと思う。

PTAや地域の力が本当に大きいと思う。みんなで協力することがいいと思う。地域の力をお借りしながら、そして、まちづくり協議会など巻き込みながら頑張っていきたいと思う。

(委員)学校まると図書館について、物理的にいたるところに本を置くという、ハード面だけではなく、ソフト面、図書室で授業をすることを推進したり、読書単元に力を入れたりというのはあまり聞かない。

「楽しむための各種取組の創意工夫」という新規の企画について、先日、石川県の県立図書館を訪れた。スポーツ体験に関連して、「ゆるスポーツ」をご存じだろうか。ゆるスポーツとは、力がなくても楽しめる、例えばブラックホール卓球という、卓球のラケットの真ん中に穴が空いているスポーツだ。イベントとして、楽しいのではないかなと思った。

「居場所づくり」について、最近、図書館で見ることが多いが、ボードゲームをするコーナーがあり、そこで TTRPG(テーブルトップ・ロールプレイング・ゲーム)をしている図書館がある。例えば、カードを引いて、何かのキャラクターになり、4人で1つの世界を作るというものだ。そのようなボードゲームを置いておくと、楽しく、クリエイティブなことができるのではと思った。

(委員)「エンタメ図書館大作戦事業」という名前がとても強く、キャッチーなタイトルなので、このタイトルに負けない定義を考える必要があると思う。わくわくする居場所はもちろん大切だが、他のことにも言えてしまう。大人が考えるわくわくと、子どもが考えるわくわくが違う。一言で表すことができれば強いなと思った。

(事務局)これらの取り組みを全校に広げていくことが重要だと考える。子ども司書やジュニアサポーターの活動を全校に広げていく。子ども図書館だけではなく、学校教育部、子ども家庭局、都市ブランド創造局等とも連携して活動している。

周知の仕方についてのご意見もいただいたので、しっかりと検討し、より子どもたちが、子ども図書館、地区図書館、学校や家庭、地域でも読書の楽しさに触れながら過ごしていけるような活動を推進して参りたい。

今年度第2回目の推進会議は、来年2月に開催したいと考えている。

以上をもちまして、令和8年度第1回北九州市子ども読書活動推進会議を終わります。